2023年12月29日発行　VOL.9

NICO☆NICO

認定こども園・子ども子育て政治連盟～認こ～*Nico・Nico*　ニコニコ通信
子どもたちの笑顔を守りたい

御礼のあいさつ

認定こども園・子育て政治連盟会長　田頭初美

師走の慌ただしさ、クリスマスの賑わいも一段落して、
令和5年の日めくりカレンダーも残りわずかとなりました。
様々な活動がコロナ前に戻り、充実した毎日をお過ごしの
ことと思います。
さて、この1年間、会員の皆様には様々な面でご支援、
ご協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。

振り返ってみますと、当会は「子ども子育て支援新制度」が施行される2年ほど前に「認定こども園政策研究会」として発足しました。その活動に賛同くださり、歩みを共にしながら国の子ども達の未来のことを考えていく国会議員連盟として参議院議員衛藤晟一先生を会長に「認定こども園を推進する国会議員連盟」が発足したのをきっかけに、我々の政策研究会も改組、改名し、正式な団体として東京都に登録して4年目を迎えました。まだまだ新しい組織ではありますが、本会は、全国の認定こども園、子ども・子育て支援事業等の有志が、すべての子どもの最善の利益を追求し、実現するために活動をしております。

これからも、認定こども園、そして子ども・子育て支援事業等の主たる担い手として、お互いの声が届く関係性を構築しながら政策提言などを行ない「すべては子どもたちの未来のために」という思いを心に据えて活動をして参りたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

さて、こども家庭庁が誕生してから9か月あまりが経過いたしました。

子ども家庭政策に関する多数の委員会や検討会、分科会が進められてきております。

その中には、子ども・子育て支援法や児童福祉法、認定こども園法などの 法改正を含む制度改正が必要になる事項も多く見受けられ、今後の行方が どうなるのか気になるところです。

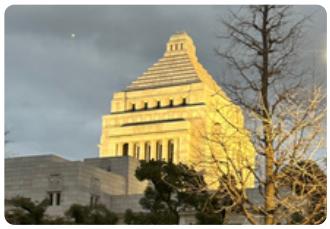
〈子ども・子育て支援等分科会での検討事項〉
○出産・子育て応援給付金及び妊産婦等に対する 伴走型相談支援の制度化
○こども誰でも通園制度（仮称）の創設
○保育所等における継続的な経営情報の見える化
○小規模保育事業における３歳以上児の受入れ
○保育士の復職支援の強化
○保育所等の職員による虐待等に関する通報義務等 〈他の分科会や専門委員会等での検討事項〉
○児童手当の拡充に向けた実務的な対応 （こども政策に係る実務者検討会）
○基準を満たさない認可外保育施設の無償化に関する経過措置 （こども政策に係る実務者検討会）
○地域限定保育士制度の全国展開 （保育士資格等に関する専門委員会）
○保育教諭の特例措置の期限到来を受けた対応 （保育士資格等に関する専門委員会）
○母子保健関係 （成育医療等分科会）

こどもまんなか社会の実現に向け、多岐にわたる議論がなされておりますが、上記朱書き部分が特に我々に関与する部分になると思います。
保育分野にはこれまでも十分に手当をしてきた、という声も聞こえてくる中で、やはり引き続き保育政策に目を向けていただかなくてはなりません。
私たちは大切な社会の資源であり、社会的インフラとしての役割を担う最重要な仕事をさせていただいております。 私たちがなくなったら、こどもまんなか社会ではなくなります。 そう自負しています。
超少子化社会、人口減少社会のなかで、私たちも努力が必要だとは思いますが、持続不可能にならないよう、是非国を挙げて幼児教育・ 保育政策の推進が図られていくことを願ってやみません。
さて、今般「こども戦略方針」を踏まえ、職員の配置基準が75年ぶりに見直されることが決定いたしました。 このことは悲願であり、就学前教育保育の団体が一貫して要望してきたことでもあります。
しかしながら、1歳児の配置基準については先送りになってしましました。
もう少し思い切った改革を！　と思いつつも、国としてもなかなか難しい課題があるのだと思います。
ともあれ、幼児教育保育政策が使いやすく平等なものとなるよう、現場の声を尊重しながら様々な制度設計をしていただきたいと切に願う今日この頃です。
そのためにも引き続き当会の活動にどうかお力をお貸しください。
そして、数は力なり。我々の活動に賛同くださる国会議員連盟の会員が増加しております。
時代が変わりました。見える景色も変わっております。誰かが何かのために個々に動く時代ではありません。政治も団体も、我々も一丸となって、本気で子どもたちの未来を考えなくてはなりません。
お知り合いの園さんや、子ども政策に興味関心をお持ちの方に是非お声がけいただき、会員として共に活動していただければ幸いです。
それでは来年が皆様にとって、そして子ども達にとって幸せ溢れる1年になりますことを祈念申し上げ今年1年のお礼のあいさつといたします。

皆様の声を届けていきたい

認定こども園・子ども子育て政治連盟2023

1月
認定こども園・子ども子育て連盟役員改選



令和5年~6年

会　長	田頭　初美	常任幹事	日吉　輝幸
副会長	木村　義恭		村井　慶二
	東ヶ崎静仁		財前　亘
	渕野二三世		石川　進治
	東口　房正		大澤　弘子
幹事長	正本　秀崇		渡辺　祐一
副幹事長	柏尾可奈子		寺尾　好洋
	加藤　泰和		天笠　昌明
事務局長			野村　法宏
会見責任	真﨑　啓	顧　問	角田　享
会計監査	角谷　正雄		越智　瑞啓

2月
認定こども園を推進する国会議員連盟　第3回総会

衆議院第一会館に於いて、衛藤晟一会長、田村憲久会長代行、山下貴司事務局長をはじめとする国会議員の先生方が参加のもと、開催されました。衛藤会長挨拶の後、同席した認定こども園・子ども子育て政治連盟の田頭会長が「こども家庭庁に関する要望書」を提出しました。

1.保育の質保障と安全・安心のための職員配置基準の見直し
2.処遇改善の更なる財政処置と充実
3.全世代で子ども子育てを支える社会の実現

5月
自民党の抜本的・総合的な少子化対策(案)

6月
小倉将信内閣府特命担当大臣への表敬訪問

6月
北海道選出国会議員と認定こども園関係者による勉強会

9月
東北選出国会議員と認定こども園関係者による勉強会

8月
NPO・NGO関係団体委員会所属決定

自由民主党組織運動本部の団体総局の15団体委員会の一つであるNPO・NGO関係団体委員会に所属が決定しました。

11月
予算税制等に関する政策懇談会

NPO・NGO関係団体委員会において、「令和6年度こども家庭関係予算及び政策に関する要望書」を提出、更なる処遇改善、配置基準の見直し、他6項目について要望しました。

11月
認定こども園を推進する国会議員連盟 第4回総会

令和6年こども家庭関係予算及び政策に関する要望書

1.更なる処遇改善に向けた財政措置の拡充
2.保育の質の保障と安全・安心のための職員配置基準の見直し
3.全てのこどもの育ちを保証できるこども誰でも通園制度に
4.光熱水費、給食原材料費等の物価高騰対策について
5.事務的手続きに係る書類の簡素化及びICTの促進
6.全世代で子ども子育てを支える社会の実現と公定価格の見直し

◎政策提言
◎ニコニコ通信No1~9発行
◎各種勉強会・セミナーへの参加
◎会長他、ロビー活動
◎都道府県連絡会・役員会の開催・会員拡大のための活動

一年間、大変お世話になりました。

認定こども園を推進する国会議員連盟会員

北海道

衆・中村裕之

北海道

衆・東国幹

北海道

衆・堀井学

北海道

参・岩本剛人

北海道

参・高橋はるみ

北海道

参・船橋利実

青森県

衆・神田潤一

青森県

衆・木村次郎

青森県

参・滝沢求

岩手県

衆・藤原崇

秋田県

衆・冨樫博之

秋田県

衆・金田勝年

福島県

衆・亀岡偉民

福島県

衆・上杉謙太郎

福島県

参・森まさこ

茨城県

参・上月良祐

栃木県

衆・船田元

群馬県

参・清水真人

埼玉県

衆・新藤義孝

埼玉県

衆・山口晋

埼玉県

衆・三ツ林裕巳

埼玉県

参・古川俊治

千葉県

衆・松野博一

千葉県

衆・櫻田義孝

千葉県

参・猪口邦子

千葉県

参・豊田俊郎

東京都

衆・下村博文

東京都

衆・平沢勝栄

東京都

衆・伊藤達也

東京都

衆・長島昭久

東京都

参・丸川珠代

神奈川県

衆・中西健治

神奈川県

衆・坂井　学

神奈川県

衆・古川直季

神奈川県

衆・三谷英弘

神奈川県

衆・義家弘介

新潟県

衆・細田健一

新潟県

衆・高鳥修一

新潟県

参・小林一大

富山県

参・野上浩太郎

石川県

衆・小森拓郎

福井県

参・滝波宏文

山梨県

衆・堀内詔子

山梨県

参・永井学

山梨県

参・森屋宏

長野県

衆・後藤茂之

長野県

衆・宮下一郎

静岡県

衆・宮澤博行

静岡県

衆・塩谷立

愛知県

衆・神田憲次

愛知県

衆・青山周平

愛知県

衆・根本幸典

三重県

衆・田村憲久

三重県

衆・鈴木英敬

京都府

衆・勝目康

大阪府

参・太田房江

兵庫県

衆・谷公一

岡山県

衆・山下貴司

岡山県

衆・あべ俊子

広島県

衆・平口洋

広島県

衆・新谷正義

広島県

衆・小林史明

山口県

衆・高村正大

比例中国

衆・石橋林太郎

徳島県･高知県

参・中西祐介

愛媛県

衆・塩崎彰久

愛媛県

衆・村上誠一郎

愛媛県

衆・井原巧

愛媛県

参・山本順三

高知県

衆・中谷元

高知県

衆・尾崎正直

比例四国

衆・山本有二

福岡県

衆・宮内秀樹

福岡県

参・松山政司

佐賀県

参・福岡資麿

熊本県

衆・金子恭之

熊本県

衆・木原稔

大分県

参・古庄玄知

大分県

参・白坂亜紀

宮崎県

衆・武井俊輔

宮崎県

衆・古川禎久

比例九州

衆・今村雅弘

比例

参・有村治子

比例

参・衛藤晟一

比例

参・自見はなこ

比例

参・山谷えり子

2023年12月20日現在
衆議院議員　59名
参議院議員　25名
敬称略
都道府県・衆参・選挙区順

顧問	塩谷　立	幹事長	福岡　資麿
	下村　博文	副幹事長	木原　稔
会長	衛藤　晟一		高鳥　修一
会長代行	田村　憲久		古川　俊治
副会長	金子　恭之	事務局長	山下　貴司
	新藤　義孝	事務局次長	堀井　学
	松野　博一		三ツ林裕巳
	有村　治子		滝波　宏文
	松山　政司		高橋はるみ
	山本　順三		
	丸川　珠代		

認定こども園・子ども子育て政治連盟役員

田頭初美 会長
青森県

木村義恭 副会長
北海道

東ヶ崎静仁 副会長
茨城県

東口房正副会長
大阪府

渕野二三世副会長
大分県

正本秀崇幹事長
大分県

柏尾可奈子副幹事長
北海道

加藤泰和副幹事長
北海道

真崎　啓
事務局長会計責任
埼玉県

会計監査

角谷　正雄(新潟県)

常任幹事

天笠　昌明(福島県)
渡邊　祐一(千葉県)
日吉　輝幸(石川県)
野村　法宏(岐阜県)
村井　慶二(大阪府)
財前　　亘(岡山県)
石川　進治(山口県)
大澤　弘子(愛媛県)
寺尾　好洋(宮崎県)

顧問

角田　　享(東京都)
越智　瑞啓(愛媛県)

入会はこちらから

都道府県別正会員人数

北海道	15
青森県	14
岩手県	2
宮城県	3
秋田県	4
山形県	3
福島県	6
茨城県	6
栃木県	6
群馬県	4
埼玉県	9
千葉県	7
東京都	12
神奈川県	6
新潟県	1
富山県	3
石川県	1
福井県	1
山梨県	2
長野県	1
岐阜県	2
静岡県	1
愛知県	3
三重県	4
滋賀県	1
京都府	3
大阪府	10
兵庫県	5
奈良県	2
和歌山県	3
鳥取県	1
島根県	1
岡山県	3
広島県	2
山口県	3
徳島県	1
香川県	1
愛媛県	7
高知県	4
福岡県	4
佐賀県	2
長崎県	2
熊本県	1
大分県	9
宮崎県	7
鹿児島県	1
沖縄県	0

2023年12月29日発行　VOL.9

NICO☆NICO

認定こども園・子ども子育て政治連盟～認こ～*Nico・Nico*　ニコニコ通信

子どもたちの笑顔を守りたい

【えんとうせいいちと明日を語る会】

12月12日(火)18時から、「えとう せいいち」と明日を語る会 2023 in Winterが開催されました。今回は、東ヶ﨑副会長と私の2名で参加させていただきました。

日本のデフレ構造がなぜ起きているのか、その脱却の道を日本の現在の経済数値を使って説明されました。素人の私でも、なるほど、と理解できました。一番のポイントは、「市場や競争に任せるだけでは過少投資となりやすい分野（デジタルや防災、そしてもちろん「少子化政策」）について、公的支出を呼び水として民間投資を拡大する」ことです。そして、マクロ経済をから重要政策に関しては「青天井の予算」を使うことが大切である、とおしゃっていただきました。

会を終えて、勇気づけられるとともに、このような方を招いていただいた衛藤晟一先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

（事務局長・真﨑啓）

【神田潤一君を励ます会】

12月18日(月)憲政会館で行われた「神田潤一君を励ます会」に、田頭会長・真﨑事務局長と3人で参加させて頂きました。

神田潤一議員には、今年9月に行われた「東北地区選出国会議員と認定こども園関係者による勉強会」の議員窓口として大変お世話になりました。

自民党の派閥パーティー問題で大変な中、開催することを悩まれたそうですが、きちんとマスコミも入れての勉強会でした。

大島理森前衆議院議長の地盤を引き継いで、ご苦労も多いのでしょうが、出席先輩議員の挨拶でも、期待されている事が大いに分かりました。

参加議員の紹介の後、木原誠二自民党幹事長代理より、経済政策についてのご講演を頂きました。

この様な勉強会を開催することの意義・大切さを学びました。

（常任幹事・天笠昌明）

神田潤一議員

大島理森
前衆議院議長

金子恭之議員

新藤義孝議員

石橋林太郎議員

神田議員、有村議員と記念撮影

編集後記

今年、還暦60歳を迎えた私。兎年の年男。

そろそろ大人しく残りの人生を・・・という考えでいたのですが、甘かったです。

認定こども園・子ども子育て政治連盟の役員として選出され、一年間走り続けました。

気がつけばまだまだ足りないことばかりだと気づかされました。

そして、やらなければならない事も理解してきました。

同志と共に、残りの任期を辰のように飛びたいと思いますので、よろしくお願い致します。

一年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

（天笠）

発行人
認定こども園・子ども子育て政治連盟広報
会　長　田頭　初美
副会長(広報担当)　東口　房正
広報部会　寺尾　好洋
広報部会　天笠　昌明
事務局長　真﨑　啓

kodomokosodate.sr@gmail.com